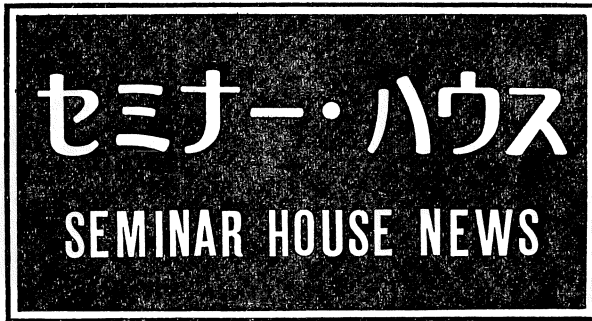


第21号 20円

昭和45年 9月25日

内 容

- 自己形成の意義……………1
- オーストラリアの先住民族……………2
- オーストラリアの先住民族……………4
- オーストラリアの先住民族……………5
- オーストラリアの先住民族……………5
- オーストラリアの先住民族……………6
- オーストラリアの先住民族……………7
- オーストラリアの先住民族……………8
- オーストラリアの先住民族……………8
- オーストラリアの先住民族……………9
- オーストラリアの先住民族……………9
- オーストラリアの先住民族……………9



発行

財団法人 大学セミナーハウス

《所在地》

東京都八王子市下柚木
電話 0426-76-8511~2

《東京事務所》

東京都中央区日本橋本町3の3
三井銀行本町支店ビル5階
電話 東京 (270) 4431
振替口座 東京 74590番

編集・発行人 飯田宗一郎

製作 中央公論事業出版

大学における知的な訓練は、自己形成の重要な部分であると私は考えるので、どのような意味を知性的訓練におくことができるかを考えてみたいと思います。

知性の世界とは何でありましょうか。一言で言って、実感の世界からの離脱、剝離をあえてすることだろうと思います。ここで私が実感の世界と申しまして、感性とか常識という言葉を使わないのは理由があります。常識は科学と対立するものとして一段低く扱えがちですが、本来 common sense とは、実感のように、異なった環境に育ち、かつ置かれている一人一人の人間の持つ独りだけの感じ方、見方、欲求のあり方ではなく、社会が共通のものとして育てていく一人一人に共通のものとして身につけているという共通の感覚です。また感性とは、食欲という明らかに自然の秩序に属するものをいうが、われわれが日常、感覚的、感性的という時、実は文化のカテゴリーの中で出てくるものを包括しているのです。例えば守銭奴の金銭欲は、貨幣経済が前提されて、そこに初めて起ってくる一つの心理的な倒錯でありますが、自然的欲求に劣らず強いので、われわれは感性的なものと考えがちだからです。

抽象的な知識は分析のための範疇を自覚的につくり上げ、方法的なものと考えていく世界です。それは日常性の中で、子供の時から

馴染んできた実感の世界のように、わが身に密着した親しさと具体性を持ちません。客観性を志向した認識は、この実感の世界に属しては一步も進みません。実感の世界を突き放し、言葉や概念を厳密に使いながら、一步一步手探りをしながら前進していく。そこで初めて、すでに自明だと思っていたものを、全く新しい目ではっきりとらえる。闇を突き抜けながら、ある展望が開け、高みに到達する喜びを感じるのである。このような知性の作業が、自然

自己形成と知性の意味



東京大学教授

福田 敏 一

このような世界の中で、一体範疇はどのような意味をもつのでしょうか。実感の世界を人間に対立するものとして、自分と切り離して概念をつくり上げ、それを整理して範疇をたてていくということとは、ひっくり返された姿から逆に人間をみることによって、手前勝手な偏見と実感の世界を乗り越えた人間理解をすることです。ルソールが『エミール』の中で、「人間を通じて社会を、そして社会を通じて人間を認識する」と言ったように、最後に自己認識に回帰してい

認識の場合どのようなかたちで進むかは、私自身あまりよくわかりませんが、方法の問題で自己形成とかかわってくると思います。つまり学問に王道なしという飛躍のない積み上げは、自然認識の中で最も端的に鍛えられるところだからです。では社会認識はどうかという点、これは自分たちが気がつかない程、実感の支配の強い領域です。大変偉い学者でも、思いもかけない実感的なものに動かされていくという事はいくらでもあります。

くという性格を持たざるを得ないので。本当に自己を知るには、範疇的な社会認識で *her social* なものとして自覚化することなしにはできないのです。したがって社会認識は自覚化の作業としての意味を持ち、この認識を育てることには、明らかに自己形成のために重要な意味を持つと信じています。この認識を身につけていくには、自分自身の実感と一番遠い、違和感の強いものを、自分の組み上げていく枠組の中に、積極的に取り込んでいくことがぜひとも

必要です。私の場合、政治学という学問をしておりますが、別に偉い政治家になる資質はございません。自分のやらなければならない対象のものがつまじらぬ権力欲は、自分の実感から最も遠い、異様な世界です。しかし、それを中から理解することができなければ、認識の仕事は進みません。このような自己矛盾は大変苦しいが、認識のレベルにおける同化作用を行なうことが実感のレベルではっきりとした距離を保つことにつながるのです。こうした認識の営みが自己形成に非常に大きな役割を持つるのではないかと申しました。その大きさを開発しようと思えばする程、その限界をも見極めざるを得ないので。

実感の世界から自分を引っぱる作業は、実は強いバイタリティーがなければ、徹底的に遂行されるということはありません。また強いバイタリティーというものがある、緊張が強い認識をつくり出す、という逆説が成り立ちそうです。その意味では、知性の持っている力が人間にとって本当に強くなりうるのは、むしろ例外的な事態であるかと思うのです。つまり人間の情欲は極めて強くシヨペンハウワーはそれを意志と呼んで、それに対する表象の世界、知性的世界は、意志を正当化

新緑の中で オープン・ハウス



長期研修セミナー館

茅前館長に感謝する

昭和四五年五月一〇日

緑一色におおわれたセミナーの丘は、梅雨シーズンで時々小雨模様の日であったが、あの人の人を迎えて、新館披露のオープン・ハウスが催された。

七つの宿舍群で構成された従来

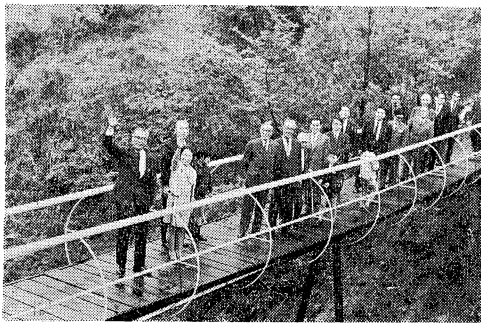


この会場にはなじみの深い茅誠司先生の笑顔のあいさつ

のセミナー村に、単独の棟で二五人が泊れる研修館が谷をはさんで建てられた。目的はやや長期に滞在して集中的な効果をあげるためである。

遠くに見える富士山や大山、丹沢の山々が借景であることは止むをえないが、眼前の敷地に接続した杉の森くらいは永久に所有したいものだという念願が所有者の寄付によって達成された。「伊藤勝造さん、ありがとう」と全員大拍手の中で感謝状が贈呈された。

野村胡堂先生と言えば、銭形平次で知られた高名な大衆小説家である。そのご夫人はな様は、上代たの先生の日本女子大学生時代からの友人である。そのご令嬢穂子様は企画委員長松田智雄東大教授のご夫人である。ご母堂が昭和四三年一二月末に天寿を全うしてご

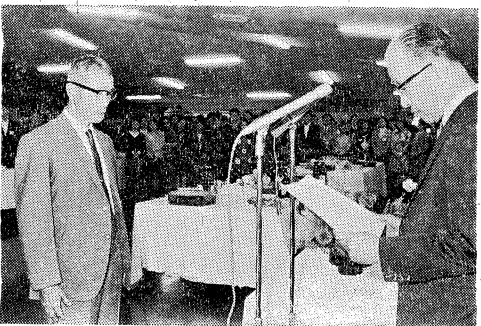


かやはしの上で、渡り初めも楽しく

逝去されたので、遺産五百万円が当ハウスに寄付された。折柄長期研修セミナー館の建築計画中であったので、その方に使用させていただいた。かくして本日、野村記念セミナー室が献堂されたわけである。高村理事長から感謝のことが述べられ、開室の缺を穂子様呈上し、女子学生から花束が贈呈された。

思えば茅誠司、大浜信泉、佐原六郎の三先生を、飯田宗一郎氏が案内して現在の敷地を初めて視察したのが、一九六二年一月二四日であった。霜のため山道もぬかり、靴にどろががついて困った冬の日であった。

本年三月末、館長を辞任されるまで当ハウス推進力のシンボリック存在であった茅先生に対し、何か気のきいた感謝の方法はないもの



伊藤勝造氏に高村理事長から感謝状を

だろ。新館に通じる谷間に橋をかける必要が生じた。初めは簡単な木製の橋を考えたが、木製で

プログラム

- 司会 専務理事 飯田宗一郎
- 二：〇〇 開会(会場本館食堂)
- 挨拶 館長 増田 四郎
- 工事報告と感謝
- 理事長 高村 象平
- 祝辞とお礼 教師・学生代表 来賓・職員代表 茅 誠司
- 二：三〇 開宴
- 司会 日本女子大山本 和代
- 乾杯
- 元東京教育大学長三輪 知雄
- 二：〇〇「かやはし」渡り初め 茅誠司先生夫妻
- 野村記念セミナー室開く 松田 穂子
- 一三：四〇 記念講演会
- 開会演奏 杉の子クライス
- (東大助教授杉山好ハッハゼミ)
- 一四：〇〇 講演
- 講師紹介
- 東大名誉教授 山内 恭彦
- 「月の石」について(スライド)
- 東大地震研究所助教授金森博雄
- 一五：三〇 シェイクスピア劇 ハムレット一幕
- 学習院大生(児玉久雄教授指導)
- 一六：〇〇(新館大セミナー室)
- 茅誠司先生を囲むお茶の会
- 一七：〇〇 新館見学
- 一八：〇〇 終了

は危いというので鉄製に変わった。そうなるとその形も、中央で幅の広い、前後が少しくびれた、手すりもややつり橋らしく、震動のあるこたつものになった。これはいけるぞ、当ハウスの名所が一つできるから、これを茅誠司先生のご功勞に捧げる記念しよう。かくして「かやはし」が誕生したのである。

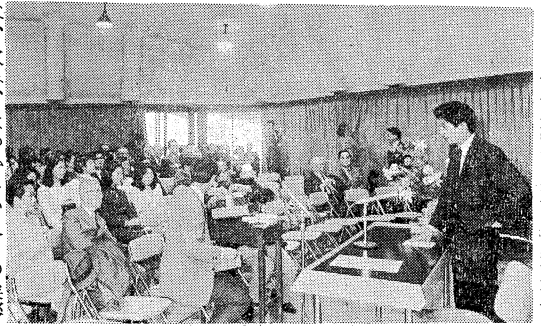
教師側から早大川原栄峰教授、来賓側から伊藤昇津田塾大教授(当時の朝日新聞論説委員)、学生側から日本女子大の久保育子さん、職員側から土田業務課長が、交々立って茅誠司先生に思い出をこめたお礼のことは呈上した。母の日でもあり茅夫人には女子学生から感謝の花束が贈呈された。感謝の眼ざしが会場に溢れる中に、主賓茅誠司先生が立たれ、思い出の中にセミナー・ハウスの創立とその後の運営、そして飯田専務理事の行動力などにふれつつ、感銘深い挨拶をもって、今日の催しをうけられた。

かくして第一部を終り、山本和代先生の司会で祝賀パーティーに入る。まず理事の元東京教育大学長三輪知雄先生の音頭により一同乾杯をなし開宴。語り、笑い、食



ティーブを切る松田穂子様

「月の石」を講演する金森博雄氏



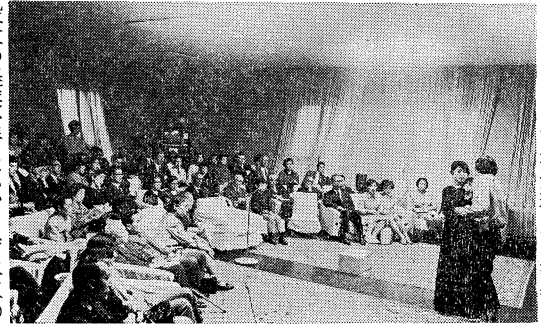
べ、飲み、なつかしい人との挨拶に時を過ぎた。さわやかな光景であった。みんな喜んでくれた。

甲斐の駒ヶ岳の産というモミの大木に「かやはし」とかかれ、見事な標識である。国学院の三枝充恵先生の筆になる。ハムレットとオフィリアが茅夫人と松田夫人にテープを切る鉄を渡すという演技も満点であった。

橋の西端に茅先生ご夫妻が立られて渡り初めに移る。いずれの日か名橋「かやはし」として、当ハウスの名所になるであろう。野村記念セミナー室が向うの丘の拍手をうけて献堂される。

記念講演の開会奏楽には東大杉山好先生のバッハ研究会が賛助出演され、あわせてパイオルガン

シェイクスピア劇のある場面―ハムレットとオフィリア(開館以来初めての演劇)



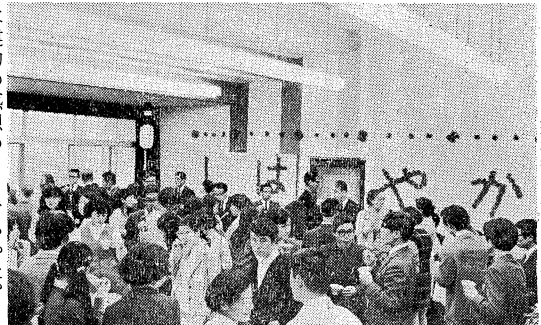
設置の提案を行ない、まず二五〇分の資金として一万円を寄付され熱意の程を示された。

講演はアポロ一号が月から持ち帰ったことよって、科学界の話題となっている「月の石」について東大の金森博雄先生が、スライドを使用しつつ、そして実物まで持参され興味深い話をされた。新館屋上でこけらおとしの屋外劇をして下さる筈であったが、天候悪く、急拠本館ラウンジに舞台を移して学習院大学生のシェイクスピアが熱演された。大好評。

かくして時が経過し、新館大セミナー室に設営された「茅先生を囲むお茶の会」に足をはこび、新しい建築と周辺の風景を初めて見る人が多いので、にぎやかな会話

は建物の感想のようであった。茅誠司先生となじみ深い先生方の顔も見え、学生達の心づくしの奉仕による祝賀の提灯も興を添えていた。談笑と友情が新ホールに満つ。

茅先生を囲むお茶の会風景



アジア財団のシュアード氏、小谷正雄氏、文部省の村山大学学術局長、板垣与一、田上稔治、三輪光雄、内藤正、大原恭子の各氏、家族づれは住谷一彦、芳賀徹の両先生、親子は久保田きぬ先生、新館玄関前の造園費を寄付された下村雄氏等で、お客さん一〇〇名、学生一〇〇名が、終日それぞれのところに参加された。

三々五々新館の宿舎とセミナー室を參觀され、夕べの中を帰路につかれた。

高村理事長報告概要

- 長期研修セミナー館地鎮祭 昭和四四年九月一八日
- 建築面積 五七七・七六平方メートル (約一九三坪)
- 設計者 U研究室(吉阪研究室)
- 工事者 清水建設株式会社
- 総工費 五五、〇〇〇、〇〇〇円
- 文部省補助金 二〇、〇〇〇、〇〇〇円
- 日本自転車振興会補助金 (卓球室) 一、一〇〇、〇〇〇円
- 野村家寄付金 五、〇〇〇、〇〇〇円
- 一般募金(寄付金) 二八、九〇〇、〇〇〇円

松田稔子様に対する感謝
森林の立木寄付者伊藤勝造氏に対する感謝(六九三坪の杉の森)
初代館長茅誠司先生に対する感謝「かやはし」の命名 (二十一米の鉄橋)

オープン・ハウスを祝して
記念植樹のため寄付を募る

- 会場募金 一〇一、一九二円
- 五・六月募金箱 一一、七六六円
- 計 一二二、九五八円
- 長期研修セミナー館周囲に数十本の樹木を植えます。

オープン・ハウスに出席して

一橋大学教授 板垣 与一

長期研修セミナー館竣工祝賀会出席のときは、いろいろ有難う存じました。そのときの記念写真二葉ご恵送いただき感謝の至りです。当日の盛況が想起され、よい記念のしるしと永く保存いたします。

あの日、茅先生のお言葉に「ミスター・ブルドゥーザー」の愛称が披露され、思わず苦笑いたしました。これが、これほど神経のゆきとどいたブルドゥーザーは、何処でも見かけられるそれではなく、野猿特製のもので、内部には超長期の計算機も仕掛けられており、玄関に入ったとたんに、募金箱に金一封を投ぜざるを得ないような舞台装置のあるのに感心いたしました。それが緑化計画に投下されたことのご報告で、コンピュータをそなえたミスター・ブルドゥーザーに改めて敬意を表します。

(専務理事宛の書翰より)



小雨の中、けやきを植える東大農学部若崎代志治先生と学生達

募金運動始まる

目標・一億八千万円

昭和四五年一月九日 大蔵省寄付金免稅許可

本法人が募金運動をするのは、今回が三度目である。第一回は建設資金三億円募金、第二回は講堂、図書館、教師館等の第二期工事一億五千万円募金である。そして今回の一億八千万円の募金である。国立でもなく、公立でもない民間の財団法人である当ハウスが永遠に歩かねばならない寄付金募集の一筋道である。

募金運動を開始するためには慎重な検討が必要である。まずぜひそうしてほしいという切なる目標が存在しなければならぬ。

当ハウス五年の成果を評価し、教師と学生は利用者として、国と社会とは後援者として、そして本法人は設立者として、当ハウスの発展を要望している事実を確認しなければならぬ。

その要望を集約し、正しく判断し、それを実現しようという結論に達したのが開館五周年記念事業なのである。そのための資金を調達しようというのが、一億八千万円の募金である。

土地買収費(約七千坪の隣接山林) 八、五〇〇万円

長期研修セミナー施設

六、五〇〇万円

スポーツ施設・林間歩道

職員宿舍等諸建物整備
一、五〇〇万円

計 一八、〇〇〇万円

募金運動は、教育運動ではないが単なる集金運動でもない。大学と社会とを結ぶ協力の実践である。相互に信頼しながら善意の参

法人関係報告

第一回常務理事会(銀座・交詢社)

昭和四五年四月一〇日

協議事項

(一) 常務理事会運営の方針
大体月の中頃に一回程度随時開催すること。

(二) 新しい橋の名称について
前館長茅誠司先生の功勞に感謝するしるしとして「かやはし」と命名すること。

(三) 施設料及び宿泊料等の値上げによる増収額の用途について
施設の拡充による仕事の分量の増加に伴う増員、および職員への給与改善に伴う人件費に充当すること。

(四) 理事長、館長の出勤日
理事長は月一回、館長は週一回出勤すること。両氏の発言があり、これを了承する。

加を仰ぐのである。理事長、館長は当面の責任者として会社訪問という苦勞な募金行脚をしなければならぬ。三月に入り、さらに四月、五月、六月と進むに従って募金日程が忙しくなってくる。増田館長が時に喜び、時に思案氣に訪問の成果を注目しているようである。こうした苦勞の上に、セミナー・ハウスの次の五年は堅牢な土台を築くのである。貧者の一灯というが、当事者を激励する作用は強大である。多くの貧者があつて、富者の心を動かすものである。

開館五周年記念行事

昭和四五年一〇月二二日

記念講演 同 午後二時

記念式典 同 午後三時

お祝いパーティー同 午後五時

記念大学共同セミナー
四五年一〇月二二、二五
日 学問における創造とは
何か

〈全体講義〉

東大名譽教授 大塚 久雄
武蔵大学学長 正田建次郎

〈セクシヨン演習〉

国立私立大学教授八名
記念出版(中公新書)
書名 西洋と日本

比較文明的考察—
世界史におけるヨーロッパと
日本 増田 四郎

ヨーロッパとは何か
堀米 庸三

日本人の思维方法中村 元

日本文学のひとつの見方
島田 謹二

(昭和四五年一〇月二五日発
行予定)

第四回会員校事務連絡会

昭和四五年七月一日

当日は生憎風まじりの大雨だったにもかかわらず、二三大学、四名の出席をみたことは、何よりもありがたいことであった。

本館ラウンジで休憩の後、施設をまわりながら新しいかやはしを渡り、五月一〇日オープンした長

川嶋辰雄氏を推し、質疑応答、懇談を行なったが、主な点は次の通りであった。

- ・ 繁閑の状態を前もって知らせしてほしい
- ・ 土・日はいつも満員のようだが、いつ頃申し込めばよいか
- ・ 利用の原則はどうか
- ・ 会員校会費および宿泊料の値上げ、生活上の態度、食事の内容
- ・ 特別行事(交歓会、成人の日、クリスマス等)について

懇談会終了後、新築の長期研修宿舍を參觀して本館に戻り、五時二〇分より晚餐会。六時四〇分閉会した。

当日の出席者(敬称略)

- 東大(大島藤三、三浦浩守、高尾謙治、山本秀明) 一橋大(堀越保明、田中博) 東京教育大(小野真海、嶺哲之助) 東京学芸大(北沢俊男、森元直良) 医歯大(田淵定人、成川孝) 農工大(安宅寿三雄、鈴木美也子) 電通大(星野豊司、塚田八州男) お茶の水女大(岡本春雄、添谷東吾) 東京外語大(戸田孝司、松島静子) 都立大(岡部光男、田中収) 慶大(鴨下清一) 中大(天野成光) 立大(内藤武、石井秀夫) 法大(五十嵐靖朗、古田正得) 日大(西井征四郎) 東女大(鈴木法子、木部マサミ) 武工大(川嶋辰雄) 明学大(中田軍三、鈴木忠男) 成蹊大(日高忠義) 共立女大(笹治桂子) 東経大(水津嘉視、岩崎晃、大越弘) 東理大(魚津貞夫) 東洋大(岩崎秀臣)

第11回財団法人評議会

決算と五周年記念事業

大河内一男氏を議長として

昭和45・6・2 私学会館

新評議員会議長に東京大学名誉教授大河内一男氏推挙される。また理事として、新たに東京大学名誉教授山内恭彦、早稲田大学教授村井資長、東京教育大学名誉教授三輪知雄、東京大学教授松田智雄の四氏が推選され、さらに前東京教育大学学長三輪光雄先生の後任理事として現学長の宮島竜興先生を選任する。

議事の主なるものは昭和四四年度決算、昭和四五年度予算、事業計画などで、すべて原案通り可決承認された。

当日の出席者(敬称略)

- 大浜信泉、増田四郎、高村象平、飯田宗一郎、村井資長、田上稔治、佐原六郎、大河内一男、佐藤喜一郎、小出廉二、白井常、加藤六美、宮島竜興、清水文彦、團勝磨、佐藤朔、近藤頼巳(代理)、春日井薫、嶋崎昌、山田良之助、鳩山薫(代理)、森戸辰男、守屋美賀雄、三宅彰(代理)

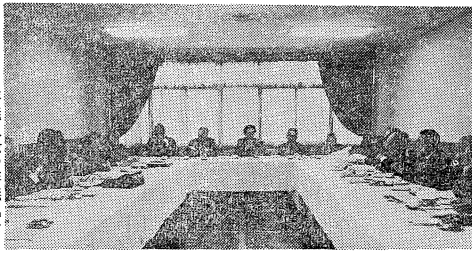
昭和四四年度決算について

五月一九日監事会

昭和四四年度から複式簿記を採用し、経理事務の刷新に努める一方、公認会計士海野文雄氏の監査を受けるなど、法人財政の厳正な

運営を図った。

昭和四四年五月一九日山田良之助、田上稔治両監事のご来館を願ひ、海野公認会計士の立会の上で、帳簿の検査、資産内容と記帳の照合などを受け、それに基づいた貸借対照表、収支決算書が正確であることを証明された。六月二日開催の評議員会において、別記の如き決算報告が承認された。土地の買収、建築工事等のため、土地、建物仮勘定が設定されたが、開館五周年記念募金の達成とともに、資産勘定に編入される筈である。



評議員会の審議風景

昭和44年度決算書

Table with 2 columns: 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenditure). It lists various financial items like 預金利息 (Interest on deposits), 寄付金 (Contributions), 補助金 (Subsidies), etc., with their respective amounts in Yen.

本年度純剰余金 20,293,954

土地建物仮勘定

Table detailing the 'Land and Building Provision' (土地建物仮勘定). It lists income (収入) from various sources like 文部省補助金 (Ministry of Education subsidies) and 日本自転車振興会補助金 (Japan Bicycle Promotion Association subsidies), and expenditures (支出) for 敷地拡張買収費 (Site expansion acquisition costs) and 長期研修館工事費 (Long-term training hall construction costs).

予想外に利用者が多かったため、同時に職員採用が思うにまかせず、人員不足のまま運営したという消極的な原因もあって、經常収入に余剰が生じ、退職積立金や厚生資金に繰入れを行なうことができたことは、幸せであった。

新年度企画委員会の構成なる

一 大学・専門分野とも 調和のとれた人選で

企画委員会の新しい顔ぶれが決まり、本年度初回の委員会は四月二四日、第二回目は五月二五日にそれぞれ開催された。この間、個別の案件については、小委員会形式の会合が数回にわたって行なわれ、活発な委員会活動が続けられている。

第一回委員会

- 副委員長として、川原栄峰・鈴木皇両教授を互選。
○大学共同セミナーの年間計画について、国庫補助金の運用を含め協議。
○当面する第二九回大学共同セミナー「大学と人間」の実施の大意を決定。

第二回委員会

- 開館五周年記念論集の編集刊行につき討議し、川原栄峰、鈴木皇、芳賀徹の三氏を編集委員に選任。
○開館五周年記念セミナーの構想を話し合い、企画・運営の立案者として、久保田きぬ、住谷一彦、遅塚忠躬、福田欽一(東大教授)を委嘱。
新しく選ばれた企画委員は次の通りである。任期は、昭和四七年三月まで(○印は留任、順不同)

委員

- 鈴木 皇 (上智大教授)
○久保田きぬ (成蹊大教授)
○乾 崇夫 (東大教授)
○芳賀 徹 (東大助教授)
○星野 命 (国際基督教大助教授)
○松田 武彦 (東京工大教授)
○住谷 一彦 (立教大教授)
○森岡 清美 (東京教育大助教授)
○竹内 啓一 (一橋大助教授)
○柿内 賢信 (東大教授)
○唄 孝一 (都立大教授)
○宮崎 繁樹 (明治大教授)
○村田喜代治 (中央大教授)
○徳末安伊子 (日本女子大助教授)
○根岸 愛子 (東京女子大助教授)
○遅塚 忠躬 (都立大助教授)
○村井 実 (慶応大教授)
○福田 欽一 (東大教授)
○吉田 夏彦 (東京工大教授)
○木原 弘二 (慶応大助教授)
○山内恭彦 手塚富雄 (顧問)

第28回大学共同セミナー

★主題 現代文明の諸問題

★期日 昭和45年5月9、10日

—新しい世界観の視座を求めて—

〈全体講義〉

現代科学と人間

東京大学名誉教授

山内 恭彦氏

〈セクション指導〉

A 「進歩」という問題

早稲田大学教授 川原 栄峰氏

B 仏教のめざすもの

国学院大学教授 三枝 充恵氏

C 現代の科学

上智大学教授 鈴木 皇氏

D 近代日本の詩心—五月の夕べに

くちずさむ—

東京大学助教授 芳賀 徹氏

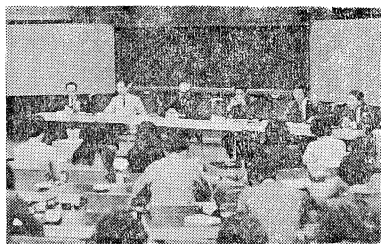
E 現代社会と社会変動

東京大学教授 富永 健一氏

〈参加学生〉

八四名(うち女子四名)

京女大(一一)、早大(九)、



インターセクションにおけるパネル討論

…主題の主旨…

公害問題国際シンポジウムの東京宣言は、その一に「公害は世界中に広がっており、現代最大の課題の一つになっている。物質的破壊は進み、人びとは苦しみ、文明は混乱している」と述べ、その六には「よい環境に住むのは基本的人権である」とうたっている。これがわれわれ大人の造った文明の姿である。

平和の恒久化は人類の至上命令であるが、人類は未だに平和の中に生きる有効な方法を発見していない。戦争が人間の生存とは相いれないということを経験によって最初に知ったわれわれ

は、あらゆる人間が持っている自己保存の本能を非暴力の原則によって可能にしなければならぬ。

科学技術が進歩し、生産が上がり、戦後の窮乏の中で、日本は必死の努力をして経済成長をなすとげ、今や自由世界第二位の経済大国になったのであるが、一九六九年だけでも交通事故のため一〇〇万の同胞が傷つき、一六六、〇〇〇を超える同胞の生命を失っている。

このような現状が現代文明に反省を求めないはずはない。まさに現代文明は人類史上、かつて経験しなかった危機に臨んでいるといふべきである。さればユネスコは一九七〇年を人類の教育の年として、これまでの教育を省み、考えなおし、すでに予知できる人類の破壊を食い止めるための教育を創造しようとして計画しているのである。人間にとって教育とは何かが問われているのである。

一九七〇年の日本は公害の年であるといわれるが、ヨーロッパの一九七〇年は「自然の年」とされている。事実自然があつて人間があり得たのだし、人間があつて知識があり得たのだが、その知識がつくった文明に人間の未来がないとすれば、経済と人間が和解し、人間と自然が和解できるように学をつくらなければならない。われわれは現代文明への哲学的な問いかけを試みたい。

(一頁より)

するためにあるにすぎないということ強調し、フロイトは意識的な部分、知性の働く部分はほとんど人間の行動を決定しないということを示しました。ルソーは情念 *passion* をコントロールすることができるとは、実は理性ではなく他の *passion* であることに気づき、一度自分の持っている情念を自ら否定することによって味わう感情の深さ、そのような *passion* を対立させようとしたのです。

知性を訓練して感じたような喜びは、認識の世界にのみあるのではなく、われわれの日常の行為の中に常にあります。その喜びは、例えば倒錯した実感の世界を乗り越えたときに初めて味わうような深い喜びです。そしてそれを決定していくものは情操以外にはありません。しかし、情操については、実は制度的な保障が大学では与えられていないのです。われわれにとって必要なことは、制度では割り切れないものの重要性を自覚することではないかと思えます。一番大事なことは、自己形成のために、道具として制度を使うべきだということです。制度に対する過剰な期待が、自己形成から離れていく弱さにつながり、機構信仰を生み出すからです。制度が自分の目的に合うように使いなから、独立の自主性の豊かな大人になる、ということを目指したい。

また知性といえども、大きな衝動を背景にして初めて展開するので、感受性の非常に豊かな時期でなければこの仕事はできません。そして単に知性を実感に對立させるだけでなく、お互いの実感をぶつけ合い、それぞれの多様性を殺さず、自分も生きる、しかも生かす、ということを感じて下さい。このような *inter-personal* な実感の対立を知りうることは、自分の内面そのものの多様性を自覚する者にのみなされるのです。

われわれは自己形成を志す時、自分自身をまさに目的としています。カントは、「人間はそれ自体、一つの目的である」と言いました。*inter-personal* に自分自身の心のぞきこむ能力をもった人間は、自分の矛盾を知り、弱さを自覚するでしょう。その時われわれは、人間を超えたものを求める気持をおそらく持つでしょう。それは一度は自己目的とした自分自身を、喜んで捧げるような、そのための道具とするような大きな目的、使命を発見することです。もし感受性の若い時期に知性の営みを続けながら、このような使命にぶつかると、それは人間として味わう最も大きな幸福です。目的であつたものを手段とするという意味では、自己形成の自己否定ですが、これこそ自己形成の完成である、と私は呼びたいと思えます。

〔第二九回大学共同セミナー〕
全体講義の概要。文責・編集者)

第29回大学共同セミナー

★主題 大学と人間

— 未来にかける「わたし」の発見 —

★期日 昭和45年6月27(29)日

〈全体講義〉

I 自己形成と知性の意味

東京大学教授 福田 欽一氏

II 人間と科学

— 人間に未来はあるか —

慶応義塾大学教授 渡辺 格氏

〈セクション指導〉

A 人間にとって学問とは何か

成蹊大学教授 安藤 英治氏

B 公害を考える

中央大学教授 村田喜代治氏

C 科学と人間

慶応義塾大学助教授木原弘二氏

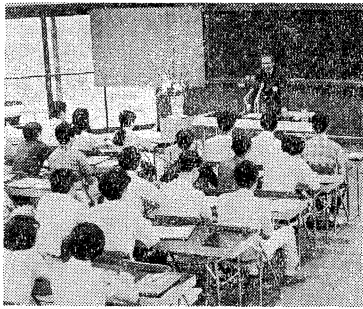
D 世界史の中の日本の近代

東京大学助教授 平川 祐弘氏

E 人間を識ること

国際基督教大学助教授 星野 命氏

F 「東洋的」とは何か



渡辺格先生の全体講義(講堂)

〈参加学生〉

早稲田大学助教授 福井文雅氏

六四名(うち女子一七名)

慶大(一一)、中大(五)、学芸大

一橋大(三)、立大(三)、日本女

大(三)、教育大(二)、拓大

(二)、東経大(二)、専修大(二)、

東京医歯大、東工大、日大、共立

女大、明治学院大、明大、津田塾

大、東京理科大、上智大、信州

大、聖路加看護大、国士館大、東

京電機大、埼玉大、神奈川大、成

城大、国学院大、玉川大、学習院

大、聖心女大(各一名)

東京大学助教授 平川祐弘

打てば響く

大学セミナー・ハウスでの合宿

が、参加した教師にも学生にも好

評な理由の一つは、参加者が自分

から勉強したい、何かを学びとり

たい、という積極的な意欲をもっ

ているからではないかと思う。学

生が熱心であれば教師もおのずか

らそれに応えようと努めるし、演

習は学生が思っている以上に両者

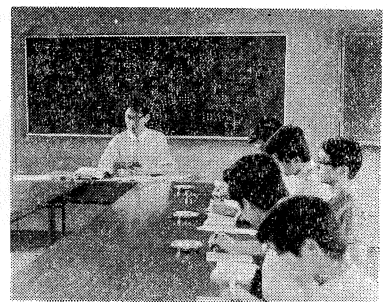
の合作であるから、善意の連鎖反

応のようなものがセミナー・ハウ

スでは起る。アカデミック・アト

モスフェアというのは、そのよう
な打てば響く精神的雰囲気さす
のではないだろうか。学生が適切
な質問を発するから授業も活発に
なるのだ。大学紛争ではもっぱら
それとは逆方向へ連鎖反応が起っ
ただけに、それだけですませずセ
ミナー・ハウスでの合宿が尊く感じ
られる。特に東大の紛争が一番深
刻であった時期に、僕は比較文学
比較文化課程の学生と、忘れがた
い勉強の日々をこの地で送ること
ができたので、このような施設の存
在に感謝せずにはいられない。こ
こは自然の環境に恵まれ、建築の
施設に恵まれ、職員配慮と熱意
に恵まれている。どぎつい看板も
なく、汚いビラの痕跡もない。こ
こでは生活の秩序と規律がきちん
と維持されている。その当り前の
ことが奇妙に尊く感じられ、市中
の大学から来てみるとあたかも非
日常的なことに感じられる。フラ
ンスの田舎で修道院を訪
ねて寝泊りした時の印象が不思議
によみがえってきたりする。

セミナー・ハウスはそのよう
に、一面では欧米の古き良きカレ
ッジの面影を伝えているが、しか
も新しい時代の要求に応じて新し
い知的な実験も試みている。共通
のテーマやプロジェクトをめぐっ
て、異なる専門分野の研究者をさ
まざまの大学や研究者から集め、
時には社会人や外国人も混えて、
演習を開き、シンポジウムを催し
ている。これは従来のいわゆるタ



平川祐弘先生と学生たち(セミナー室にて)

コ壺式の学問の自動運動とは違っ
て、学問の固定化しがちな枠を取
り払おうとするアプローチの試み
なのである。同じ問題を異なる面
から検討し、さまざまな方法論を
用いて論じ合うというこの接近の
方法は、浅薄に流れる危険性もな
いではないが、その危険を冒して
みるだけの価値のある知的冒険で
あろうと思う。この共同セミナ
ーでは講師の間で、儀礼の情性や
イデオロギーの情性にとらわれな
い突っこんだ議論の応酬があっ
て愉快だった。和して同ぜずとい
う学問的社交はなかなか難しい生
活の知恵だが、シンポジウムの後
味は悪くなかった。

セミナー・ハウスの暮らしを見
ると、この地から日本近代文学史
についての新しい見方が生まれる
のではないかと予感される
ようなプログラムもある。そのよ
うな演習や講義の成果が、演練を
経た後、書物にまとめられて公刊
されるなら、その予感現実の力

となって社会へ還元されるに違
ない。僕もまた学生となって参加
してみたい気がする。

大学生活の新鮮な第一歩

東京学芸大・一年 角田晶子

不安ながらも楽しみに待って
いたセミナー・ハウスでの三日間を
無事終え、新たな気持ちでの生活も
一カ月を過ぎようとしています。
夢中で過ごした四カ月の大学生
活はあせりの毎日でした。一体こ
のままではいいのか。今私がやるべ
き事、今でなければ求めました。セ
ミナーでこの手がかりはつかんで
たつもりです。それは勉強すること
と。単なる味気ない勉強ではなく、
世の中に必要な勉強です。討論や
講義の中で、内容が難しく意味が
わからなかった所がいくつもあり
ました。私の勉強不足なのだとい
常痛感させられました。私は見
失っていた自分を発見したような
気がします。だから今までの情性
的な生き方に終止符を打ち、新鮮
な第一歩を踏み出した所です。ま
た同じ失敗、同じ生き方になるか
もしれません。でもやってみるこ
とが大事なのです。努力してみる
ことが最良の方法だと信じます。
勇気が湧いてきたんです。やっぱ
りセミナーへ行って良かった。そ
こは若者の広場でした。底を流れ
ている熱情が私にも伝わるのがわ
かりました。

千人会

遂に五〇〇の大会を超す

大学人 三九八人
社会人 一二四人
計 五二二人

第10回報告

市光工業教育主査 藤永 光之殿

東大法学部教授滋賀 秀三殿

中京堂社員 浅井 義博殿

日軽アルミ社員森川 芳彦殿

東大名誉教授 小谷 正雄殿

東大名誉教授 三輪 光雄殿

堤不動産社長 堤 辰次郎殿

津田塾大学WUS常任理事 村井 孝子殿

東京大学理学部教授夫人 藤田 淑子殿

東大理学部教授久保 亮五殿

東大理学部教授朽津 耕三殿

セミナー・ハウス職員 飯田 恵殿

立教女短大教授宮崎 申郎殿

主婦(東京) 飯田八千代殿

津田塾大学職員 江尻美穂子殿

東京大学教授 斎藤 信房殿

一橋大学社会学部助教授 竹内 啓一殿

セミナー・ハウス職員 桐生 富久殿

日本女大学長有賀喜左衛門殿

獣医 両角 豊殿

東京女大図書課長

C セミナー・ハウス職員 樋口美智恵殿

B 三青社社長 保々 房殿

B セミナー・ハウス職員 竹内 喜夫殿

C セミナー・ハウス職員 土田 美芳殿

C 専修大学助教授加藤 克己殿

C セミナー・ハウス職員 菊池 百合殿

C 学習院大学文学部教授 小泉 一郎殿

C 下妻小友幼稚園長 福西 基殿

A 帝塚山学院大学助教授 伊東好次郎殿

B 青山学院大学教授 稲毛 卓殿

C 東京学芸大学助教授 野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

C 慶応大学講師 江野沢一嘉殿

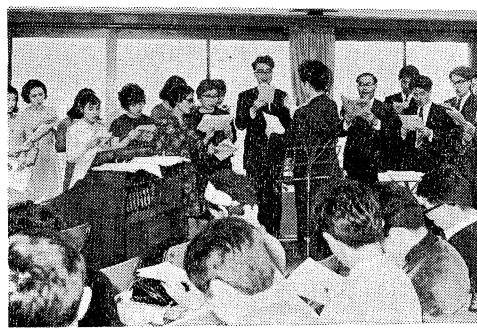
パイプオルガンを

東京大学助教授 杉山 好

講堂が建てられたときから、パイプオルガンの設置を進言してきた。これはやってみる価値のある実験ではないだろうか。

パイプオルガンはいくまでもなく中世から近世のバロック時代にかけてのヨーロッパ音楽を担った主楽器であって、教会の建物のなかに組み込まれている。だからヨーロッパでは教会と不可分の楽器とされているが、日本では幸か不幸かパイプオルガンを備える教会は少ない。他方、大学でも一部のキリスト教系大学を除いて、パイプオルガンをもちたいばかりか音楽など学問と出世の邪魔であるとばかり、これを学生たちのクラブ活動、「趣味」の領域に追放して、大学の本来の社会的機能に關係なしとすましている状態である。

オルガンはピアノと異なつて多声部音楽の楽器で、これは絶対的真理(神)の前に各々の声部がかけがえない使命と独立性をもつて相互間の対話、緊張、協奏を展開するのに最適である。教師と学生、国立大学と私立大学、学生と社会人、日本人と外国人等さまざまな複数声部をその個性のまま生き生きと結びつけるかけ橋たるうとする大学セミナー・ハウスはこの楽器に類比できる音楽的ひな型がある。この丘に大きくなくとも音質のよいパイプオルガンを



パイプを歌う杉の子クライス

形成力としてのその働きのほか、それがこの楽器を奏でる者、聞く者ひとりひとりの魂に真理への畏敬と永遠の厳肅さをめざめさせ、また育くむと信じたからであった。真理は厳しい超越であり、たくましい永遠への持続であること、パイプのオルガン音楽は無言でわれわれの魂の深みに語りかけ、われわれの精神を現実認識の絶望的重荷に抗してなお希望の前進へとふるい立たせないのであるか。耳ある同志諸兄姉よ、ともにこの調べを聞きうするため、応分の協力をしようではないか。大樹の枝を張るところに天下の鳥が宿つて歌うように、パイプオルガンを備えたセミナー・ハウスに必ずや第二、第三の若きシェヴァイツァーたちがつどい来て、やがてそれぞれのランバレーネを目ざして巣立つてゆくことであらう。

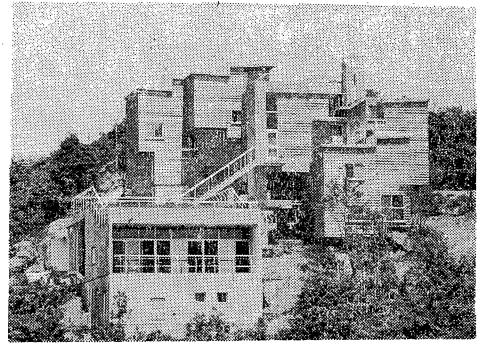
* * *

杉山好先生はセミナー・ハウス設立の目的に共鳴し、美しい心をもつて応援される支持者の一人である。ドイツ語教師として、バツハ研究者として、またヴォカリストでもあり、聖書学者でもある。何より学生の好きな人である。

二五〇万円のパイプオルガンの購入基金設置を提唱され、まずこのグループが一万円を寄付されたのである。この美しい願望が達成されるよう祈らずにはおられない。(飯田専務理事)

千人会は一〇〇〇人の会員を必要とします

しばしば千人会は何人になりましたかと問われます。まだですと答えると、勧誘が下手ですといわれます。誕生日にお祝いのカードをいただくのが、わが家の習慣になりましたといわれる三年会員の方がいます。カードをもらわないと会費の払込みを忘れてしまうから、あれは名案だとほめて下さる方があります。



設計にあたって

U 研究室

このたびの建物の設計では、既存のセミナー村との対照というところが、主要なテーマとなりました。対照的にすることによって、両方の良さがハッキリしてくるのではないかと考えたからです。セミナー村では二人ずつのユニット・ハウスになっていますが、ここでは、長い滞在の間、お互いに親密になれるように三、四、五人などを空間の単位とし、あわせて個人の場を確立できるような工夫や、いろいろな段階の人数に対応したコミュニケーションが成り立つような単位の組合せを考慮して設計しました。

また、従来のセミナー村は、自然に溶け込ませようという発想から不整形の単位を地形になじませ

長期研修セミナー館

大セミナー棟222.18m ²
(地階 58.19m ² 1階 163.99m ²)	
1階	大セミナー室、テラス、卓球室、厨房、屋上広場
地階	浴室、便所、管理室(和室); 機械室
宿泊棟	・中セミナー室(野村記念室).....355.58m ²
(1階 191.76m ² 2階 163.82m ²)	
中セミナー室	(厨房付)、ホール3室
宿泊室	25人分、便所、シャワー室、リネン

富田玲子

て並べましたが、このたびは逆に建物群をそれ自体が、周囲からかなり独立した世界を創り出すように、四角の組合せを採用し、中セミナー棟、宿泊棟は地面から浮き上ったものに、大セミナー棟は地面にめり込ませて、その上に人工的な広場を作りました。

利用のおすすめ

数日以上の集中的なゼミナル活動がのぞましい利用方法です。生活上、必要な設備が、おむね館内にありますので、あまり外に出なくても済みます。五泊以上の滞在の場合には、

割引料金となり、宿舎はユニット・ハウスと同額(例:会員校学生五二〇円)となります。

寄贈図書

昭和45年1~6月

- 「現代日本の民主主義」 宮田 光雄殿
- 「現代財務会計」 「経営分析」 染谷恭次郎殿
- 「生産研究所報」 No. 21, 22 「生産研究所紀要」 1号 早稲田大学生産研究所殿
- 「岩波講座・世界歴史」 第三、四、九、一〇、一六、二三、二四巻 岩波書店殿
- 「日本人の性格」 飯田宗一郎殿
- 「近代法への歩み」 久保正幡殿
- 「大河内一男著作集」 第四巻「自分を生かす」 大河内一男殿
- 「終末論的考察」 大木 英夫殿
- 「大河内賞受賞業績ダイジェスト」 大河内記念会殿
- 「現代科学論」 山内恭彦殿
- 「国際問題」 No. 119~123 日本国際問題研究所殿
- 「アウグスティヌスと古代の終末」 「ウェーバー社会学の基礎研究」 「ルネッサンスと宗教改革」 内田芳明殿
- 「大塚久雄著作集」 第一〇巻 「近代日本の農村的起源」 大塚久雄殿
- 「文学論序説」 「英語伝達論」 「言葉と文学」 「In Spite of Dungenon」
- 「Our English Songs」 I, II 高橋源次殿
- 「百鍊抄人名総索引」 「今鏡人名総索引」 彦由一太殿
- 「わが回想録」 佐藤喜一郎殿

- 「物理学読本」 「現代物理学の世界」 上、下 海老沢克之殿
- 「八王子のサンショウウオ」 八王子市教育委員会殿
- 「学校カウンセリング研究」 「アメリカの女子職業と再教育」 林 潔殿
- 「Peace Research in Japan 1963」 日本平和研究懇談会殿
- 「原典アメリカ史」 全6巻 「講座アメリカの文化」 全4巻 「アメリカのイメージ叢書」 「アメリカ研究入門」 アメリカ研究振興会殿
- 「明治という時代」 塩田庄兵衛殿
- 「現代心理学入門」 尾島商正殿
- 「Higher Education and Socio-economic development in East Asia」 飯田能子殿
- 「フランス法概論」 野田良之殿
- 「工学院大学研究論叢」 第八号 工学院大学図書館殿
- 「日本総合図書目録」 竹内書店殿

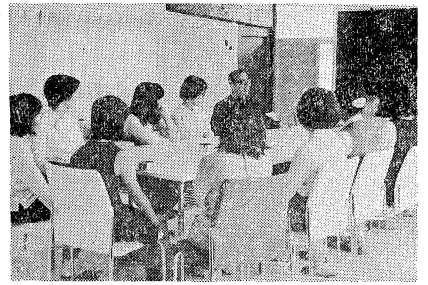
- 東京経済大学講師 川村 貫治
- 慶応義塾大学助教授 西川 俊作
- 明治学院大学助教授 平田 光弘
- 日本航空電子工業新入社員教育 市光工業新入社員教育
- 日本WFA欧州派遣団員の研修 上智大学講師 笠 耐
- 慶応義塾大学助教授 福島 義久
- お茶の水女子大学助教授 尾田 幸雄
- 国際商科大学講師 米山昭一郎
- 東京経済大学助教授 向井 武文
- 青山学院大学助教授 守永 誠治
- 拓殖大学助教授 赤松 要
- 学習院大学助教授 荒井 良雄
- 横浜国立大学助教授 子安 宣邦
- 生化学工業新入社員教育 電気通信研究所管理者研修会
- 青山学院大学助教授 天利 長三
- 立教大学講師 平木 典子
- 日武武蔵教育担当者会議 立教大学助教授 林 伸郎
- 東京都立大学助教授 石村 善助
- 東洋大学助教授 佐藤 武夫
- 立教大学聖公会SCM 日本女子経済短大助手高乗 正臣
- 産業関係研究協会監督養成講座 明治学院大学助教授 増田 茂樹
- 専修大学助教授 森川喜美雄
- 東京都立工業短大教授吉田 竜郎
- 生化学若い研究者の会 日本女子大学助手 松村 祥子
- 東京経済大学助教授 木原 行雄
- 国立音楽大学講師 国安 洋
- 国際経済商学学生協会の 三菱信託銀行金融問題研究会
- 東洋大学講師 藤田 藤雄
- 職業訓練大学助教授 宗像 元介



利用状況

新しい標識「野猿峠バス停前」

- 四月.....
- 法政大学助教授 霜島 甲一
- 明治学院大学講師 尾崎 朔



津田塾大学フロッシユマンキャンブ
新館野村記念室で井門富二夫先生を囲んで

- 上智大学教授 藤井 昭彦
- 東京大学助教授 杉山 好
- 早稲田大学助教授 深沢 実
- 慶応義塾大学助教授 佐野 勝男
- 立教大学助教授 住谷 一彦
- 青山学院大学助教授 福岡 博之
- 岩城硝子支店長研修会 宮内 康夫
- 東京理科大学講師 桑原 晋
- 日本大学助教授 徳永 重良
- 法政大学助教授 湊 秀雄
- 東京大学助教授 飯吉 厚夫
- 慶応義塾大学助教授 中島 敏
- 東京教育大学助教授 尾原 親雄
- 上智大学講師 尾原 悟
- 東京都立大学助教授 小沢 有作
- 日本生産性本部働く婦人の講座 二神 恭一
- 早稲田大学助教授 松石 勝彦
- 一橋大学講師 西村 秀夫
- 東京大学助教授 青山 博之
- 東邦大学(薬)オリエンテーション
- 東京大学助教授
- 東京YWCA学園

- 東洋大学教授 御園生 等
- 大聖病院職員研修会 金子 六郎
- 東京農工大学助教授 河野 一英
- 東京外国語大学助教授 宮川 透
- 明治大学助教授 内田 章五
- 立正大学助教授 杉沢 新一
- 東京経済大学助教授 大谷 喜明
- 東邦大学(理)オリエンテーション 日本女子大学助教授 一番ヶ瀬康子
- 滝ノ川教会聖書研究会 谷川 和穂
- 共励会
- 光印刷営業研修会
- 柏木教会青年修養会 東京YWCA学園
- 五月.....
- 帝京大学助教授 高山 昇
- 法政大学講師 良知 力
- 東京経済大学助教授 入江 敏夫
- 東京経済大学助教授 荒川 幾男
- 専修大学助教授 菅井 準一
- 日本WFA欧州派遣団員の研修 日本文化研究会理論研修会
- 早稲田大学助教授 木村 建一
- 日本大学助教授 笠井 芳夫
- 白百合女子大学助教授高橋 康子
- 明治学院大学講師 デジヨン 実
- 慶応義塾大学助教授 村井 実
- 山梨英和短大新入生アセンブリ 白梅学園短大講師 志摩 弘
- 上智大学助教授 高宮 晋
- 日本女子大学講師 岡本 栄一
- 八王子ロータリークラブ
- 津田塾大フレッシユマンキャンブ
- 東京工業大学イエスエス
- 慶応・早稲田・立教・合同研究会
- 白梅学園短大教授 田中 未来
- 上智大学助教授 吉田 裕
- 東京工業大学助教授 内藤 正
- 慶応義塾大学 野呂 影勇
- 法政大学助教授 栢野 晴夫
- 白梅学園短大教授 田中 未来
- 東京外国語大学助教授興水 優
- 明治学院大学助教授 大井上 滋
- 東京都立工業短大助教授 矢田 博
- 東京都立工業短大助教授 井戸川功雄
- 津田塾大フレッシユマンキャンブ 小川 圭治
- 東京女子大学助教授 中鉢 正美
- 慶応義塾大学助教授 中原 章吉
- 駒沢大学助教授 河野 一英
- 大東文化大学講師 戸野 尚
- 千代田運輸運転士安全管理研修会 戸川 尚
- 玉川大学助教授 竹内 啓一
- 一橋大学助教授 竹内 啓一
- 東京都立商科短大教授島袋 嘉昌
- 電気通信研究所研究管理者研修会 池井 優
- 慶応義塾大学助教授 池井 優
- 富士電機計算機制御研修会 文明堂日本橋店社員研修会
- 文明堂日本橋店社員研修会 金子ハルオ
- 京王帝都電鉄課長補佐研修会 依田 精一
- 東京都立大学助教授 戸谷 洋
- 東京経済大学助教授 大野 泰雄
- 東京都立大学助教授 堀川 勉
- 東京農工大学助教授 戸谷 洋
- 東京理科大学助教授 堀川 勉
- 東京学芸大学助教授 関 治助
- 法政大学助教授 田沼 肇
- 東京都立大学助教授 安平 哲二
- 東京都立大学助教授 清水 誠
- 新徳電気販売研究会 和田 陽平
- 東京都立大学助教授 林 栄夫
- 東京都立大学助教授 江夏美千穂
- 東京経済大学助教授 江夏美千穂
- 文明堂日本橋店社員研修会 アスター精機インストラクター教 育
- 職業訓練大学校教授 宮本 栄
- 日本国際学生協会
- 富士電機寮監特別研修会 日本女子大学付属高校 加藤芳太郎
- 東京都立大学助教授 加藤芳太郎
- 片倉自転車販売担当者会議 東京医科歯科大学教授勝木 保次
- アスター精機L・グループ研修 東京学芸大学新入生歓迎ゼミ
- 東洋大学助教授 今井光太郎
- 明治大学助手 中村 幸安
- 慶応義塾大学助教授 水野 正夫
- 慶応義塾大学助教授 水野 正夫
- 学習院大学助教授 児玉 久雄
- 慶応義塾大学助教授 佐野 勝男
- 田村電機会社社案の労使検討会 平井 昌夫
- 東京学芸大学助教授 天野 一夫
- 大妻女子大学助教授 青沼 吉松
- 慶応義塾大学助教授 赤刈 弘也
- 玉川大学助教授 湯沢 雅彦
- お茶の水女大助教授 竹内 啓一
- 一橋大学助教授 青井 和夫
- 東京大学助教授 今川 健
- 国際基督教大学講師 今川 健
- 上智大学助教授 平井 久
- 日本電気社員教育 勝郎
- 東京都立立川短大教授目黒 勝郎
- 東京都立大学助教授 関口 昇
- 東京農工大学助教授 河野 昇
- 京王帝都電鉄現業長研究会 栢野 晴夫
- 法政大学助教授

専務理事ノート

忙しさにまかされて、七月二五日発行が大変な遅延である。本号には茅先生の注がれた一〇年のご奉仕に対する感謝が記されている。昭和三四(一九五九)年二月二七日が東大総長室での私との初対面である。セミナー・ハウスの歴史がこの日から始まったのである。

オープン・ハウスの記事を書きながら、未払い残金五〇〇万円のこと、どうにも気がかりであったが、募金第一号の日産自動車の寄付によって八月一〇日に支払いを完了した。よかった。感謝の至りです。

創設当時からぜひ入手したかった土地が、急に先方から売込みに来たので、この機を逃さじと速決購入した。これというのも真にタイムリーに募金第二号東京ガスの寄付があったからである。九月一七日に登記完了。講堂から西へ地続き約四〇〇坪。松下館と谷をはさんで敷地内最良の景勝地である。ここに誰が何を建てて下さるか。おそらくこれは最後の建築となるだろう、私の頭にはもう設計がある。

九月二〇日の朝日新聞社説はセミナー・ハウス五年の成績を採点してくれた。これにまさる大いなる激励のことばはない。